

教育学部のアセスメントは、時系列的には以下の手順で実施します。必要と判断された場合、CETL と連携して学部 FD を実施します。

#### 《ステップ 1》

学部カリキュラムのアセスメントに際し、学部 DP に明示された 4 領域にわたる 8 つの学習成果達成に向けた取組み（授業科目）が、どのように配置・配列されているか、整理してカリキュラムマップとして示します。

#### 《ステップ 2》

科目の配置・配列の妥当性を学部として確認し、各科目担当者は当該科目を通じて育成・達成が期待される学習成果に配慮したシラバスを作成します。

#### 《ステップ 3》

シラバス内容を学部教育研究検討委員会で確認し、教授会に報告し了承を得ます。

当該科目で好成績を上げるということは、DP の当該学習成果も認められるということになります。したがって、専門科目の GPA が高い学生は、学部の DP 要件を満たしている可能性が高いと推定されます。

#### 《ステップ 4》

授業アンケート及び学生調査を活用した定期モニタリングを行います。

授業アンケートは、当該科目が十分に学生の学習に有益だったかどうかを、学生に自己評価させるものですから、アンケート結果によっては改善が必要と判断されます。また、大学が実施する学生調査および学部実施の学生調査の項目中に、学部 DP に謳う学習成果に関係するものがあります。したがって、学生の自己評価ですが、調査結果によって DP の領域中、育成不全な領域（項目）が見いだされた場合、改善対象となります。

#### 《ステップ 5》

各種プログラムに応じたアセスメントを行います。以下代表的なものです。

教職課程のアセスメントでは、主に LMS ポートフォリオ、実習等に対する外部評価、採用試験結果を用います。

グローバル対応では、TOEIC/TOEFL、海外研修効果測定、ペガサスクラブ聞取りなどを主なデータとして、その成果を検討します。

書く力育成（大学）のアセスメントとしては、プレースメントテスト、学術文章作法 I 成績、ジュニアペーパー評価を基に、その成果を検討します。

初年次教育については、1 年次アセスメント科目振り返り、学生調査、大学適応調査および抽出サンプル聞取り調査の結果に基づき、点検します。

#### 《ステップ 6》

総括的に 4 年間の学習成果をアセスメントするために、卒業研究、学びの集大成、GPA や大学適応調査を基に抽出したサンプルからの聞取り調査を活用します。

特に卒業研究においては、DP8 項目に関する評価ルーブリックを作成し、それに基づく達成度を検討します。また、卒業研究を行わない学生に対しては、「学びの集大成」作成を奨励し、評価材料とします。